

研究協力をお願い

昭和大学病院および昭和大学病院附属東病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

研究題名：入浴回数と転倒リスクの関係

1. 研究の対象および研究対象期間

2015年1月から2019年11月の間に、整形外科骨粗鬆症診に通院された方。

2. 研究目的・方法

湯治や温泉巡りに代表されるように、入浴（湯に体を浸らせること）は、日本人には古くから好まれている習慣です。しかしながら入浴動作では、浴槽をしっかりと把持し、湯船をまたぐ際に片脚起立動作が必要となります。そうすると転倒リスクの高い人は入浴回数が少なくなるという仮説が考えられます。そこで、入浴回数と転倒リスクの関係を調査することにしました。

対象は昭和大学病院または昭和大学病院附属東病院の骨粗鬆症外来に通院中の患者さんで、65歳から99歳の男女約400例を対象とする予定です。問診で1週間の入浴回数を聴取します。入浴の定義は、浴槽に湯を張り、体を浸らせることとし、シャワーのみは除外します。入浴時間の長短は問わないことにします。身体所見として、開眼片脚起立時間、握力、転倒リスクを評価します。入浴回数の中央値を求め転倒リスクの高い群と低い群の2群に分けて解析します。

研究期間

「医学研究科 人を対象とする研究に関する倫理委員会」承認後、病院長の研究実施許可を得てから2021年1月31日まで。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

2015年1月1日から2019年11月30日までに昭和大学病院整形外科または昭和大学病院附属東病院整形外科において骨粗鬆症の経過観察のために受診している患者診療録の中から、転倒スコアが聴取されている外来患者さんのデータを用います。患者背景（年齢、性別、身長、体重、診断病名、既往歴、現病歴、併用薬）および検査項目（開眼片脚起立時間、握力、転倒リスク）を調査項目とします。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院附属東病院整形外科 氏名：永井隆士

住所：142-0054 東京都品川区西中延 2-14-19 電話番号：03-3784-8000(代表)

研究責任者：永井隆士